

講義予定

2025.10. 3. 大橋 幸泰

〔概要と目標〕

歴史学と歴史教育の関係を材料に、歴史学の現在について考える。その考察を通じて、過去の人々の営みを参照して現代の諸課題に応える歴史実践の意義を考える。

〔講義計画〕

- 10月 3日 1.ガイダンス—歴史学からの自立を志向する歴史教育
- 10月 10日 2.歴史学と歴史教育の歴史(1)—史学史のなかの歴史教育
- 10月 17日 3..歴史学と歴史教育の歴史(2)—歴史教育の戦後史と教科書裁判
- 10月 24日 4.歴史学と歴史教育の歴史(3)—「歴史総合」・「日本史探究」の構成とねらい
- 10月 31日 休校
- 11月 7日 5.「歴史総合」の教科書をよむ(1)—同時代の横のつながり
〈アジアの繁栄と西洋勢力／海を越える市民革命／地域の紛争と統合〉
- 11月 14日 6.「歴史総合」の教科書をよむ(2)—同時代の比較史
〈国民国家の成立／デモクラシーの内実／戦争の記憶〉
- 11月 21日 7.中間小活—史学史のなかの「歴史総合」／「歴史総合」をめぐる議論の時間
- 11月 28日 8.「日本史探究」の教科書をよむ(1)—原始・古代
〈生産経済への移行／日本号と天皇号の成立／国風文化の内実〉
- 12月 5日 9.「日本史探究」の教科書をよむ(2)—中世
〈荘園公領制の成立／自力救済の世界／中世仏教の展開〉
- 12月 12日 10.「日本史探究」の教科書をよむ(3)—近世①
〈江戸幕府の成立と日本列島／近世の対外関係／近世の宗教世界〉
- 12月 19日 11.「日本史探究」の教科書をよむ(4)—近世②
〈近世の身分と属性／近世民衆運動と政治常識／近世民衆文化の展開〉
- 1月 9日 12.「日本史探究」の教科書をよむ(5)—近現代
〈自由民権運動と国民意識の形成／政治の大衆化／共同体とジェンダーの変容〉
- 1月 16日 13.総括—歴史学と「日本史探究」／「日本史探究」をめぐる議論の時間
- 1月 23日 14.試験

〔教科書〕

『高等学校 歴史総合』(第一学習社、2022年)【要購入】

『高等学校 日本史探究』(第一学習社、2023年)【要購入】

〔参考文献〕

歴史科学協議会編『深化する歴史学—史資料からよみとく新たな歴史像』(大月書店、2024年)

『日本史の現在』全6巻(山川出版社、2024年)

〔付 記〕

- 1.次回以降、レジュメについては、前日 23 時 59 分までに Waseda Moodle にアップするので、各自印刷して講義に持参するか、ノートパソコンなどから閲覧すること。
- 2.試験のほか、小レポートを求める。小レポートの詳細は別途指示する。なお、小レポートを提出した者が試験の受験資格を得る。
- 3.大橋と受講生との間の緊張関係を維持するため、毎回、講義の要約(200～400字程度)を記した講義記録の提出を求める。講義中に時間をとって講義記録を書く時間を確保するので、ノートパソコンなどから、Waseda Moodle の提出先へ、講義中に提出することが望ましい。講義中に提出できない場合は、翌日(毎週土曜日 23 時 59 分提出期限)までに提出する。この提出をもって出席とみなす。箇条書きではなく、必ず文章にまとめること。ただし、講義記録そのものは評価対象にしない。なお、レジュメにはない語を一つ「本日のワード」として講義冒頭に指定するので、この語を必ず含めて講義記録を作成することとする。この「本日のワード」が不記載の場合は、出席したと認めない。